

「授業参観日開催」 ～来週避難訓練不審者対応～

校長 森 勝義

先週の5月17日、授業参観日が開催されました。昨年同様、授業参観は1・2・3校時に分かれ兄弟姉妹の相関を考慮し、実施しました。

私自身、すべてのクラスを回り、記録用の写真を撮りに行きましたが、どのクラスも保護者の方々がご夫婦で見学されていたことがあり、日本語学校への授業カリキュラムへの意識の高さが感じ取ることができました。

小学部は昨年から新しくなった教科書での授業2年目、中学部は今年度新しくなった教科書での授業、来年度は高等部で教科書が新しく改訂されます。ぜひ保護者の皆様も、お子様の教科書を一緒に閲覧していただき、情報をお子様と共有してください。

さて、来週5月24日は、「避難訓練不審者対応」が予定されています。日本では痛ましい事件が起きました。5月8日、東京立川市の小学校で男2人が押し入り、教職員5人を殴るなどした事件が発生しました。教職員の好判断と勇気ある行動で、児童の安全は守られましたが、開かれた学校での防犯の難しさが浮き彫りになりました。

私が勤務していた横浜の中学校では毎年、地域警察：少年係の刑事を呼んで不審者対応訓練を実施していました。現役の刑事が不審者役となり、生徒には事前には告知せず、実施していました。当然職員には「防犯マニュアル」を参考に対応訓練しますが、毎年、不審者役刑事の鬼気迫る迫力に、教職員も足がすくみ、生徒の中には泣き出して、逃げられなくなった生徒もいました。

校長室にある「さすまた・警棒」などの使用を教職員研修で毎年やっていますが、教職員全員が使用について、熟知しているわけではありません。

本校でも、今年度から「安全警備員」を常駐させています。日本語学校の出入口は正面受付口の1カ所のみです。北川通用口や西門通用口は施錠されています。

アメリカ全土において、小中高等学校で銃の乱射事件が起こっていることはニュースでよく耳にします。現在、日本語学校では南門、正門、北門を常にパトカーで巡回してもらうように依頼しています。しかし、不測の事態には我々教職員が即、対応しなければなりません。

各担任には授業中、常にドアロックをするように徹底しています。児童生徒の安全を守るためには「何をすべきか」を常に念頭に置いて授業を行っています。現地校では制服姿の警察官が正面玄関に立っていることがあります。しかし日本語学校では立ち番はしてもらっていません。幼稚園児や小学低学年児に恐怖を与えたくないことからの事です。ご理解ください。

大阪池田市の大阪教育大学付属池田小学校に刃物を持った男が押し入り、児童8人が殺害されたほか、教師を含む15人がケガをしました。2005年には寝屋川市の小学校で包丁を持った卒業生が教師1人を殺害し、教職員2人にケガをさせた事件もありました。このインディアナポリスでも、常にひとり一人が危機管理能力を持ち、自己防衛をしていきたいです。本校は「不審者対応」「トルネード対応」「火災対応」、年3回の避難訓練を実施しています。児童生徒たちは常に真剣に取り組んでいます。安全管理の徹底を厳にしなければなりません。

小学6年2組 「帰り道」を読んで

橘 柚希

律は、最初は自分の気持ちをあまりうまく言葉にできなくて、自分がどう考えているのかを伝えられていなかったけれど、最後には周也に自分の気持ちを伝えることができました。周也は最初は言葉のキャッチボールがうまくできなくなって、律に言わなくてもいいことを言ってしまうたり、軽いことをポンポン言ったりしていたけど、最後に律が好きな事を言ったときに、周也は律の言っていることをちゃんと受け取れるようになりました。私はこの物語を読んで、自分は言われても重くひびかないことも、人によっては重くひびいてしまうこともあるから、しっかり考えて言わなければいけないなと思いました。自分だったら、自分が思っていることを考えてから言葉を言おうと思います。物語が二つの「一」「二」に分かれていることで、二人ともがいろいろなことを考えていて、自分のないこんなことが自分にもできたらな、と思っていることが表れています。片方だけ見ると、自分はこんなだから相手みたいになりたいなとか、自分のしゃべる言葉について考えていることが分かって、どうしてそうなっているのかが、もう片方を見ると、分かるようになります。例えば周也がだまりこんだ時、律の場面では、返事をしないから、だまりこんだと言っているけれど、周也の場面では、言葉のキャッチボールについて考え込んでいて、だまってしまったと書いてありました。

5月17日作品

土曜パラダイスで紹介

小学4年1組	山本 央理	「学校の 仲よしめあて がんばるぞ」
小学4年1組	梅田 惇平	「こどもの日 かぶとかぶって たのしいな」
小学6年1組	入江 友	「木の芽見て 感じる立春 嬉しいな」
小学3年1組	上田 楓	「なつやすみ もうすぐにほん たのしみだ」
小学4年2組	濱石 実咲	「よねんせい 先生やさしい うれしいな」
小学6年1組	野中 準矢	「温かく 春の始まり 立春か」
中学3年1組	K I	「春風の 暑さ感じて 夏近し」
小学6年1組	小澤 玲奈	「さくらもち みんなで一緒に 食べたいな」
小学4年1組	伊藤誠一郎	「さくらもち のどにつまって 大騒ぎ」
小学6年1組	清水 彩加	「先生の シャツの色は カラフルだ」

ダジャレコーナー

小学4年1組	西脇 楓悟	「ちょうの ちょうしが ちょうへんだ」
小学2年1組	宮裕 璃子	「しるの しゅるいを しる」



ヒデ森の言葉の森・探検

怒りの静まるとき、

後悔がやってくる。

ソフォクレス

紀元前497年〜紀元前405年 古代ギリシヤの劇作家

怒りにかられて行動に移すと、怒りが静まるとともに後悔することになるので、要注意。

しつぷう もくう

櫛風沐雨

様々な苦勞を体験すること。「櫛風」は風で髪をとかず、「沐雨」は雨で身体を洗うこと。